



▲①聖隸クリスチヤン大学・②聖隸クリスチヤン高等学園



聖隸クリスチヤン大学の今、そしてこれから

理事長 長谷川 了

一九九〇年、東京海上火災保険株式会社が三〇億円を聖隸学園に寄付してくださいました。長谷川保と聖隸の先輩達が「あなたの隣人を自分のように愛しなさい」というキリストの教えを守り、病魔と迫害と孤独の中で苦しんでいた結核患者さんたちと連命と共に生き抜いた「聖隸」の歴史に感動され私たちを信頼して、高齢社会に必要な人材の育成のために大学を作つてほしいと

寄付してくれたのでした。このことはこの聖隸の精神に生きようとしている私たちへの期待でもありました。聖路加看護大学から迎えた吉田時子学長のもとで、一九九一年度、全国で十二番目の看護大学、聖隸クリスチヤン大学と改めました。このとき、さらに計画的に発展させることを決意し、十カ年計画を作り、学部の卒業生が出た年の二年後の一九九八年度に大学院看

護学研究科を開設しました。そして二〇〇二年度には社会福祉学部を増設し、学校名を聖隸クリスチヤン大学と改めました。

二〇〇四年度には畠山龍郎明治学院大学名誉教授を研究科長として大学院社会福祉学研究科を開設します。同じく二〇〇四年度には、埼玉県立大学から小川恵子教授を学部長に迎えて、全国で三十二番目そして県内で初めてのリハビリテーション学部(理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚学専攻)を増設します。

同時に看護学部の定員増を行

い、看護短期大学部の募集を停止します。リハビリテーション

学部の開設三年目には大学院

リハビリテーション学研究科を開設し、この三つの大学院研究科を統合して二〇〇九年もしくは二〇一〇年度を目途に博士課程を設置したいと願っています。このようにして私たちはアメリカなど世界の先進国と同等レベルの高等教育機関でヒューマンサービスの専門職者、研究者を養成したいと願っています。医療保健福祉の数多くの多様な施設を持つ

(ヨハネによる福音書九章三節)

神の業がこの人に現れるために

発行者
学校法人聖隸学園
聖隸クリスチヤン大学・大学院
聖隸クリスチヤン高等学校
〒433-8558
浜松市三方原町3453
電話/053(436)5311
<http://www.seirei.ac.jp>

聖句

聖隸集団の諸法人と連携することによって、実践を重視した特徴のある教育と高度な研究を行うユニークな大学へと発展させたいと願っています。

聖隸クリスチヤン大学は二〇〇一年から第一期工事として野球場の拡張、テニスコート、フットサルコート、ランニングコース、部室棟などの整備をした新しい高校

キャンパスに、二〇〇三年八月には新しい七階建ての校舎(約九〇〇〇m²)、ホールを備えた体育館(約五〇〇〇m²)が完成しました。九月の二学期からは、聖隸命名の由来をイメージした五mの高さの大きな八枚のステンドグラス、三機のエレベーターなどを備えた超高校級の新校舎での生活が始まっています。二十一世紀にふさわしい教育環境を備えることが出来たと考えています。

「新しい皮袋には新しい酒を」の譬えのごとく、教師あげて、教育内容の改革に全力で取り組みたいと決意を新たにしています。大学キャンパスでは高校が移転した跡地を再開発して、キリスト教主義学園にふさわしいチャペルを建設します。さらに五号館、四号館、学生会館の建て替え、総合図書館などの建設に取り組みたいと願っています。

「見よ、白い馬が現れ、乗っている者は、弓を持っていました。彼は冠を与えられ、勝利の上に更に勝利を得ようと出て行った。」

(ヨハネの黙示録六章)

- ◎ **意図的、計画的に強く推進します。**
- ◎ **一人ひとりの生徒の学力向上を**
 - 本校独自の授業アンケートや学力向上委員会の具
体策の浸透を図りつつ生徒の学習への意識変革と向
上を図ります。
- ◎ **コース制による生徒の進路確立を**
 - 生徒の多様なニーズや進路希望に応えるコースに
よって一人ひとりの能力の開発とその伸長を図り所期
の目的を達成する方策を樹立し万全を尽くします。

◎一人ひとりの生徒の学力向上を
本校独自の授業アンケートや学
体策の浸透を図りつつ生徒の学習
上を図ります。

◎一人ひとりの生徒の学力向上を
本校独自の授業アンケートや学力向上委員会の具
体策の浸透を図りつつ生徒の学習への意識変革と向
上を図ります。

◎コース制による生徒の進路確立

生徒の多様なニーズや進路希望に応えるコースに
よって一人ひとりの能力の開発とその伸長を図り所期
の目的を達成する方策を樹立し万全を尽くします。



▲最新鋭のパソコンが揃うコンピュータ教室



▲7階にある眺望のすばらしい図書館



▲芝と土の2面からなるサッカー専用グランド



▲ゆとりの空間を演出するカフェテリア



▲全教室南側に面した木＝ル＝ル

▲ユバーサルデザインを取り入れた校舎

人類に役立つ人材育成の道

一九四五年、聖隸創設者長谷川保前理事長は「敗戦、祖国の復興は青年の精神の復興にあり」と不退転の信念と決意のもと、キリスト教の隣人愛を基本に人材育成の教育すなわち人類の福祉と平和に貢献する青年の教育の道を確立しました。以後五十八年間、キリストの真理と愛をよりどころにした開拓と創造の営みは連綿と受け継がれ今日に至ったのであり、二十一世紀こそこの道は人類の仕合せに直結する必要不可欠なものと確信しております。

夢の実現・超高校級の新校舎、体育館完成、グローバル・パートナーシップを意図した教育環境の完成はアガペー(神の愛・隣人愛)を最重要な礎として学びの道を當々と積み上げてきた五十八年の歴史の結晶であり、学校名のクリストファーの信念そのものであります。このことに大きな誇りと無限の感謝の念を禁じることができません。これと同時に新校舎を起点に新たな勇気と自信を奮いたたせ人類に役立つ人材育成の「新しい風、新しい時代」の実現に向けて完全燃焼いたします。

特に生徒のための新校舎建設への学園こぞつの愛の足跡とあきらめない精神力、綿密な計画力と確かな行動力こそ神の愛に基づく開拓(バイオニア)、



新しい時代の保健医療・社会福祉の担い手へ

聖隸クリリストファー大学 学長 深瀬 須加子

来年二〇〇四年度に開設するリハビリテーション学部(理学療法学専攻、作業療

法学専攻、言語聴覚学専攻の三専攻)と大

学院社会福祉学研究科(修士課程)の準備を、教職員一丸となって進めて参りました。現在は三号館校舎の建設中ですが、

すでに外枠は建ち、九月末に定礎式を行いました。来年三月の完成を待つのみで、

新たな希望が湧き楽しみにしているところです。

聖隸学園は一九五二年に准看護婦教育を始め今日まで五十余年、この間に日本の保健動向は大きく変わりました。人口構造、疾病構造の著しい変化により、医療保障、保健施策も改正され、人々のニーズは多様化し、個別性を重視したサービスの提供が必要になってきました。このことは、保健・医療・福祉の活動の方にも変化をもたらし、多職種との協働が求められるようになりました。

聖隸の教育変遷を振り返りますと、その時代時代の変化を見通し、先を予測して教育の質の高度化を図ってきました。

看護教育は、看護短期大学、大学、大学院へと、また社会福祉教育は、高齢社会を見据え早くから手掛けたヘルパー養成を介護福祉専門学校に、更に大学、大学院教育へと専門性を高め、質の向上を図つて行われたのです。その頃すでにリハビリテーション学部が出来たのが一九七二年でした。そして、二十一世紀



時代の要請にこたえられる 看護専門職者の育成のために

看護学部長 鈴木恵理子

本学の看護教育は、一九五二年の准看護婦養成所にはじまり、その後高等学校衛生

看護科、短期大学、看護大学へと受け継がれ、五十年にわたって多くの卒業生を送り出し、医療・看護の発展充実に貢献してきました。この間、医療技術が急速に高度化する一方で、社会がめまぐるしく変化し、少子・高齢社会の到来、家庭形態や機能の変化、就業形態の変化などとそれとともに大きな影響をあたえ、病院は急性期だけの短期間の入院の場となり、施設入所者、在宅療養者の重症化などがおこっています。

このような時にあって、人々のニードを的確にとらえ、健康生活を守り、健康を障害された方たちの日常生活を整えるという看護の仕事は、一層重要なになってきています。

この技術が要求され、同時に、他職種と連携し、協働するといった幅広い能力が求められています。したがってこれらの時代を担う看護職には、どんな職域で働くかによらず、高い基礎能力が必要とされると考えます。

そこで、本学では来年度入学生より、看護の基礎教育を四年制の看護学部に一本化することに決定致しました。これに合わせ、看護短期大学部の募集を停止しますので、看護学部の一年次入学定員は一四〇名

へと増員されます。

さらに、これまで社会人入学としての大学を卒業された方五名を二年次編入学として受け入れ、原則として三年間で卒業できるようにします。また、従来から行つてきました看護系短期大学または専修学校の卒業生の編入学は、五名を定員枠として三年次編入学生として受け入れることにします。

次編入学生の中の希望者から選考した十名について、卒業時に看護師、保健師に加え、助産師の国家試験受験資格が得たが、一学年一四〇名という定員をもつ大學生からは、学部生の中の希望者から選考された十名について、卒業時に看護師、保健

学生からは、学部生の中の希望者から選考された十名について、卒業時に看護師、保健

今でこそリハビリテーションという言葉が一般的になりましたが、私が大学を卒業した頃にはまだ珍しい言葉でした。一九六三年に日本リハビリテーション医学会が設立され、同じ年に日本で初めての理学療法士、作業療法士養成の専門学校が出来ました。教育はWHOから派遣された外国人によって行われたのです。その頃すでにリハビリテーション学部も開設三年目には大学院教育を開始するという構想があります。これは他大学に比べて大変早い計画と言えます。リハビリテーション医療は開始こそ遅れをとりましたが、今、猛スピードで追いかけ追いついています。その波に乗って聖隸クリリストファー大学はわが国のリハビリテーション教育をリードしようと言う意気込みで準備に邁進しています。

医療に従事する者の精神は真にキリスト教の教えに学ぶところが多々あります。従つてリハビリテーション学部が聖隸クリリストファー大学に増設されることを誠に当を得た計画と言えましょう。そのような計画に参加できることを喜びとし、意欲満々の学生さんと共に学ぶ日を待ち望んでいます



▲聖隸クリリストファー大学校舎全容 (一部CG)

リハビリテーション学部増設
リハビリテーション学部の
増設にあたつて
学部長 小川 恵子
(予定者)

大学院社会福祉学研究科
研究科の増設
社会福祉学研究科長
畠山 龍郎
(予定者)

今でこそリハビリテーションという言葉が一般的になりましたが、私が大学を卒業した頃にはまだ珍しい言葉でした。一九六三年に日本リハビリテーション医学会が設立され、同じ年に日本で初めての理学療法士、作業療法士養成の専門学校が出来ました。教育はWHOから派遣された外国人によって行われたのです。その頃すでにリハビリテーション学部も開設三年目には大学院教育を開始するという構想があります。これは他大学に比べて大変早い計画と言えます。リハビリテーション医療は開始こそ遅れをとりましたが、今、猛スピードで追いかけ追いついています。その波に乗って聖隸クリリストファー大学はわが国のリハビリテーション教育をリードしようと言う意気込みで準備に邁進しています。

聖隸クリリストファー大学はご承知のように看護の教育から始まり、昨年、社会福祉学部が出来、そして来年度リハビリテーション学部が出来ます。その波に乗って聖隸クリリストファー大学はわが国のリハビリテーション教育をリードしようと言う意気込みで準備に邁進しています。

開設三年目には大学院教育を開始するという構想があります。これは他大学に比べて大変早い計画と言えます。リハビリテーション医療は開始こそ遅れをとりましたが、今、猛スピードで追いかけ追いついています。その波に乗って聖隸クリリストファー大学はわが国のリハビリテーション教育をリードしようと言う意気込みで準備に邁進しています。

聖隸学園の将来計画について

法人事務局長 堀口 路加

「牧ノ原やまばと学園特別展」の開催に向けて

◎聖隸歴史資料館特別展

第二次十ヵ年経営計画二年目の二〇〇三年度、学園創立以来の大事業とも言うべき高等学校新校舎・体育館建築工事が無事竣工し、高等学校は新たなキャンパスで二学期のスタートを切りました。数年前から進めてきた生徒一人一人の適性と力を引き出し、可能性を切り開くためのコース制の実施、校名変更、学内の組織制度改革の流れがこの新校舎・体育館の完成により、より大きな流れへとつながり、名実ともに新生聖隸クリスチファーハイスクールが新たなスタートを切ることになります。高等学校は今後、数年のうちに中学校を設置し、キリスト教精神を基とした中学・高等学校六年間の一貫した教育プログラムにより生徒一人一人の可能性をさらに広げていきます。

大学では、来年四月に「リハビリテーション学部」と「社会福祉学部」、「看護短期大学部」、「大学院社会福祉学研究科」、「看護学部」、「リハビリテーション学科」を設置し、「看護学部」の収容定員増と看護短期大学部の募集停止を行います。この「看護学部」収容定員増（入学定員一四〇名）に合わせて二年次編入学定員五名、三年次編入学定員五名を予定し、「看護学部」の収容定員は四〇〇名から五八五名になります。看護短期大学部看護学科は、在学生の卒業を待つて発展的に解消しますが、専攻科助産学科は、

専攻は二〇〇七年三月まで存続します。

二〇〇四年度からは看護学部においても助産師課程を選択できます。リハビリテーション学部増設に合わせて大学三号館を新築するとともに、既設校舎の改修を実施してこれに備えます。さらに高等学校が新キャンパスに移転したことにより、

は大学専用キャンパスとして再開発を進めています。リハビリテーション学部は大学専用キャンパスとして再開発を進めていきます。

ハビリテーション学研究科修士課程を開設三年目の二〇〇六年四月を目処にリハビリテーション学研究科修士課程を設置する計画で、その後は研究科・各学部の完成年次の経過を待つて、看護学・社会福祉学・リハビリテーション学の三研究科を博士課程前期課程として改編し、

二〇〇九年から二〇一〇年を目標に博士課程後期課程を設置します。これに合わせて大学五号館を改築し、さらにその後四号館の改築、チャペル建設、メディアセンター建設を進め、学部・研究科の一層の連携を図りながら地域社会と二十一世紀の世界に向けて保健・医療・福祉に必要な人材を送り出し、この分野の質的向上、ヒューマンサービスの一層の向上を目指します。

二〇〇三年四月末から開催してきた「小羊学園特別展」に変わり、十一月より「牧ノ原やまばと学園特別展」を開催します。牧ノ原やまばと学園は、一九七〇年、最重度の知的障害児施設「やまばと希望寮」の設置に始まり、現在は知的障害者入所施設「やまばと成人寮」・「やまばと希望寮」（榛原町坂部）・「垂穂寮」（島田市落合）、特別養護老人ホーム「聖ルカホーム」（榛原町静谷）などを運営しています。これらの仕事の始めには、教会の働きがあつたことはいうまでもありませんが、牧ノ原やまばと学園創立者であり榛原教会牧師だった長沢巖牧師は「長期にわたる教会の働きを考え、ことばによる宣教とともに地域に対する奉仕を行っていくべき」との考え方を大切にし、榛原教会全体会員の苦しみ、障害者を抱える家族の苦悩に実際に応えていく道を選んだのです。以来、知的障害をもつ方々、高齢の方々とともに、スタッフとともに、地域の人々とともに、そして何よりも「あなたの方とともにいる」と約束された神様とともに生きることを目指す姿勢は変わることなく今に受け継がれています。

「牧ノ原やまばと学園特別展」は「ともに生きるーこの地に神の愛のご計画があるようにー」をテーマとして、創立の経緯

と目指したもの、榛原教会とのかかわり、やまばとの働きの広がり、静岡と榛原教会に尽くした「メイ・マクララン宣教師」、

「創立者 長沢巖牧師の生い立ち」、創立以来の心にのこるエピソード、現在に至る歩みが紹介されるほか、創立の逸話をDVD映像に編集して紹介します。



▲聖隸歴史資料館

学部・学科・入試種別と募集人員

■リハビリテーション学部 リハビリテーション学科／80名
(理学療法学専攻・作業療法学専攻・言語聴覚学専攻)

*2004年4月開設予定です。ご不明な点はお問い合わせください。

入試種別	理学療法学専攻	作業療法学専攻	言語聴覚学専攻
公募制推薦入学	4名	4名	4名
一般入試(前期)	20名	20名	14名
一般入試(後期)	6名	6名	2名

■社会福祉学部 社会福祉学科／95名
(社会福祉専攻・介護福祉専攻)

*専攻は、入学後約1ヶ月の間にオリエンテーションを複数回実施し、面接等を行った上で決定します。

入試種別	人数
AO入試(第Ⅰ期・第Ⅱ期)	12名
公募制推薦入学	10名
指定校制推薦入学	15名
併設高等学校推薦入学	10名
社会人特別入試	3名
一般入試(前期)	35名
一般入試(後期)	5名
大学入試センター試験利用入試(前期)	3名
大学入試センター試験利用入試(後期)	2名

■看護短期大学部 看護学科／140名

*看護学部では、2004年4月に現在100名の入学定員を140名に増やすことと助産師課程の設置を予定しています。ご不明な点はお問い合わせください。

入試種別	人数
公募制推薦入学Ⅰ	20名
公募制推薦入学Ⅱ	10名
キリスト教学校教育同盟加盟高等学校特別推薦入学	5名
併設高等学校推薦入学	10名
社会人特別入試	若干名
一般入試(前期)	62名
一般入試(後期)	12名
大学入試センター試験利用入試(前期)	12名
大学入試センター試験利用入試(後期)	7名

編入学試験(3年次)

■社会福祉学部 社会福祉学科／10名

(社会福祉専攻)※秋季試験については実施済みです。

編入学試験(秋季)	5名
編入学試験(春季)	5名

看護短期大学部

■看護短期大学部／15名

(専攻科助産学特別専攻)

専攻科入試	15名
-------	-----

大学院

■社会福祉学研究科(社会福祉学専攻)／10名

*2004年4月開設予定(設置認可申請中)。

2月入試	2月・3月合わせて 10名
3月入試	

■看護学研究科(看護学専攻)／10名

*秋季試験については実施済みです。

秋季入試	秋季・春季合わせて 10名
春季入試	

入学者選抜日程

■推薦入学、一般入試等

入試種別	出願期間	選抜期日	合格発表	入学手続期間
リハビリテーション学部	推薦入学	11/25(火)～12/5(金)	12/13(土)	12/19(金)～12/26(金)
	一般入試(前期)	1/5(月)～1/26(月)	2/4(水)	2/16(月)～2/24(火)
	一般入試(後期)	2/16(月)～3/1(月)	3/8(月)	3/16(火)～3/24(水)
社会福祉学部	推薦入学	11/1(土)～11/7(金)	11/14(金)	11/21(金)～11/25(火)～12/2(火)
	社会人特別入試	11/1(土)～11/7(金)	11/14(金)	11/21(金)～11/25(火)～12/2(火)
	一般入試(前期)	1/5(月)～1/26(月)	2/4(水)～2/5(木)	2/14(土)～2/16(月)～2/24(火)
看護学部	大学入試センター試験利用入試(前期)	1/5(月)～1/26(月)	個別試験はありません	2/14(土)～2/16(月)～2/24(火)
	一般入試(後期)	2/16(月)～3/1(月)	3/8(月)	3/15(月)～3/16(火)～3/24(水)
	大学入試センター試験利用入試(後期)	2/16(月)～3/1(月)	3/8(月)	3/15(月)～3/16(火)～3/24(水)

■編入学試験

入試種別	出願期間	選抜期日	合格発表	入学手続期間
社会福祉学部 編入学試験(春季)	2/16(月)～3/1(月)	3/8(月)	3/15(月)	3/16(火)～3/24(水)

■看護短期大学部

入試種別	出願期間	選抜期日	合格発表	入学手続期間
専攻科助産学特別専攻 専攻科入試	11/1(土)～11/7(金)	11/15(土)	11/21(金)	11/25(火)～12/2(火)

■大学院

入試種別	出願資格審査申請受付期間	資格審査結果通知	出願期間	選抜期日	合格発表	入学手続期間
社会福祉学研究科	2月入試 12/1(月)～12/19(金)	12月下旬	1/5(月)～1/20(火)	1/31(土)	2/14(土)	2/16(月)～2/24(火)
看護学研究科	3月入試 1/13(火)～2/6(金)	2月下旬	2/16(月)～3/1(月)	3/8(月)	3/12(金)	3/15(月)～3/24(水)

◆ 2002年度決算、2003年度予算について

(単位：千円)

■2002年度決算

1997年度から2006年度までの第一次10か年計画は、予定通り大学院看護学研究科修士課程を1998年度に開設し、社会福祉学部を2002年度に開設しました。また2006年度までかかるとされていた高等学校の校舎全面移転計画は、当初計画を2年半前倒して2003年9月に終えました。こうした順調な動きの中で、2002年度から2011年度までの第二次10か年計画が決定され、2002年度はその初年度にあたります。

大学では4月に社会福祉学部を開設し、同時に大学および短期大学の名称変更(「聖隸クリストファー看護大学」を「聖隸クリストファー大学」に、「聖隸学園浜松衛生短期大学」を「聖隸クリストファー大学看護短期大学部」に)を行いました。5月にはキリスト教センター新築工事が竣工を迎へ、さらに6月にはキャンパス整備工事が竣工しました。また、来年4月のリバビリテーション学部開設を控えて3号館の設計に着手し、今年3月には既存建物の一部解体撤去等3号館建築の準備工事が開始されました。さらに2004年4月に同時に実行する大学院社会福祉学研究科設置および看護学部の定員増の申請作業は既に終了しております。

一方高等学校では、2003年8月の全面移転までの経過として、6月にその第一期工事にあたるフットサルコートおよび第二テニスコートが竣工し、同年7月には新校舎・体育館建築の本体工事に着手しました。また、専門学校は2003年3月に最後の卒業生を送り出し、その役割は大学社会福祉学部に継承されました。

このように、2002年度は新たな出発の年であると同時に、さらなる次のステップへの準備年度でもありました。

収支計算書の状況を見ますと、一般的な損益計算書にあたる消費収支計算書では、2002年度の帰属収入は対前年度1億4771万円増の25億7687万円でした。これは学生生徒等納付金が6900万円増加したこと（専門学校と高校の学生生徒数は減少したが、逆に社会福祉学部と看護学部で増加した）、雑収入が6300万円増加したこと（グリーンバンク事業交付金等）が主な要因となっています。

また、自己資金による固定資産の取得額を予め収入から控除する基本金組入額は、対前年度1億9956万円増の3億4290万円となりました。固定資産の取得は11億4249万円ありましたが、うち借入金と未払金による取扱分を組入として除いています。

消費支出の部では、すべての科目にわたって前年度より増加しています。これは社会福祉学部が開設一年目であるため、支出に見合う収入が確保されていないこと、借入金の増加によるもの。また月刊誌「設備の陰面」による資本的差額の発生等によるもので、

帰属収入に占める割合は、特に人件費比率が64.4%と一般的な比率(55~60%)を上回っていますが、未完成学部があることによる一時的な状態です。これらの結果、消費支出の部合計は対前年度3億7376万円増の25億1538万円となり、消費収支差額は2億8142万円の支出超過となります。

なお、貸借対照表では、資本総額は105億5700万円となりましたが、一方で借入金の増加により負債総額も32億9400万円と増加しました。総負債率(総資産に占める前受金を除く純資債権の割合)は21.7%と上昇しましたが、なお健全な範囲内にあります。

■2003年度予算

2003年度予算の特色は、教育環境の改善という新規事業に伴う固定資産関連優先事業を実施することにあります。高等学校では、8月に完成する新校舎建築工事費（残額76%）を含む校舎移転関係費を20億800万円計上しています。また大学では、2004年度に開設するリハビリテーション学部の創設費として、3号館の建築工事費（全体の89%）や備品購入費等12億7600万円、4号館改修工事費7700万円を計上しています。さらに、2004年4月に同時にを行う看護学部の定員増および大学院社会福祉学研究科の設置に係る1号館改修工事費2380万円等を計上しており、固定資産関連優先事業全体として35億円を計上しています。

消費収支においては、収入の部で学費はすべて据え置いています。帰属収入は24億8200万円ですが、上記優先事業に伴う基本金組入額が27億9100万円と帰属収入を上回りますので、消費収入の部合計はマイナスの3億800万円となります。支出の部では、2年目となる社会福祉学部で、就任予定専任教員31名のうち28名の人件費を計上しています。また高校旧校舎等の解体や備品の除却による資産処分差額の計上等により、消費支出の部合計は28億6500万円となります。消費収支差額は31億7000万円の支出超過となる見込みです。

一方、資金収支においては、固定資産の取得が極めて大きく、その支払資金として負債率25%以内を前提として長期借入金を計上しています。

このように、2003年度は教育環境の大幅な改善・向上となる新規事業に伴う固定資産関連優先事業をかかえ、財務上は負担の大きい年度となり、特異な財務数値となっています。しかし、中長期経営計画を着実に進める過程にあり、今後社会福祉学部が完成年度を迎える2006年度以降は収支が回復し始めるまでの、リハビリテーション学部完成後の2002年度以降財務状況は非常に変化する予測です。

聖書のことば

「神の業がこの人に現れるために」

聖隸学園宗教主任
聖隸クリリストファー大学 教授 佐柳 文男

語はこのことを見事に描いている。どちらにしても、苦しんでいる人には何の助けにもならない。それどころか、肉体的にも精神的にも苦しみを何倍にもする。

イエス様は病気や障害の原因を詮索することをなさらない。「神の業がこの人に現れるために」ということも、この人が生まれつき目の見えないことの原因であると考えておられるのではない。イエス様は病気や障害などについて、その原因を詮索することをなさらない。それだけではない。原因を詮索することを禁じておられる。

病気や障害に苦しむ人を見て、私たちがなすべきことは、その人の苦しみをやらせ、除去することである。その時に初めて病気や障害の原因を科学的に追求することが必要になる。